

憲法を起草する会 大阪《第五回》 令和3年9月11日



おやじより

●おやじ

前回は何名かの方に推薦図書をご紹介いただき、私は「みことのり」をご紹介したが、『歴代天皇で読む 日本の正史』という本もオススメ。



書籍:「歴代天皇で読む 日本の正史」  
出版社:錦正社

古事記や日本書紀など、古典をベースに、それぞれの御代に起こった出来事を記述している。著者のへんてこな解釈などが入ってなく、古書に基づいた歴史の編纂の形式をとっている。

古事記や日本書紀を今から読まれる方はこれを読むと勉強になると思う。日本の歴史書として十分立派な本。

そして、今回からは、前回話しをしたように参画者の方からの話をベースに進めていく。

前回まで、日本の「のり」(憲法・法律・規範・規則)を基本として、「五箇条の御誓文」や「十七条憲法」をご紹介いただき勉強して来た。

今回は実際に、自分の身の回りの現況をベースにして、自分の周りに起こっている社会問題はどんなものがあり、それを「良い社会をつくる」という方向性を持って、それをどうやって解決することができるのか、ということを考えていきたい。

その際、今まで学んで来た古典からの文言を規範として掲げた場合、「このような文言があれば解決の道標になるのではないか」ということを紹介してもらい、皆で議論していきたい。

一般的に巷で言われている抽象的な社会問題などを取り上げて議論しても、問題としての現実味があるかないかが不明。

その為、それぞれの方が自分の体験を通じて感じている問題や、逆に良い事等もご紹介いただき、日本の國の在り様や、日本の「のり」について議論を深めていきたい。

今回は6名の方が準備して来て下さった。今日一回で全てやろうとは思っていないが、順番にご紹介いただき、議論し、共通の理解が深まったならば、次の方に移行して、再度議論を広げたい。

トップバッターは、宮平さん。

## ■食料廃棄・食料自給率の問題

### ●宮平さん

自分は、ポップコーン専門店を経営しており、食品関係の事業。食に関わる仕事の中で常々思うことは、「尋常で無いほどの食の廃棄」そして、「食料自給率」の問題。

食料自給率の問題は、カロリーベースや生産額ベースなど、色々出ていたが、調べてみてインターネット上の数字は信用できないと感じた。カロリーベースという考え方も果たして正しいのかと疑問に感じる。

ただ、この問題に関しては、日本人の食料は日本國だけで賄えるのではないかと考えており、その方向性に向けて國として取り組んで行かなければならないのではないかと感じている。

食料廃棄量は年間612万トン。毎日三千万人分の食材が廃棄されているということ。ただ、自分の感覚的には、もっと廃棄しているのではないかと感じている。

自分の会社でも、ポップコーンを作って、商品として出せないものに関しては廃棄をせざるを得ないし、そういったものもきちんと数えているのかが疑問を抱くところ。

下手したら、人口の半分の量を廃棄しているのではないかとも思っている。

それは何故かという、大規模商業施設の増加。資料で見たが、人口が減っていつているにも関わらず、日本全国の売り場面積がどんどん増えている。それに伴い、飲食店の総和面積も増えている。

競争が起こって、売り場面積が増えると、在庫を抱えるようになる。そして、売れない在庫は処分されてしまう。そういったことも廃棄が増える原因の一つであると思う。

自給率の問題で言うと、農家の減少があるのではないかと感じる。工業化が進んで、1960年から比べると農家の数も1/10近くになって、農地面積もだいぶ減っている。

ただ、当時より効率は上がっていると思うし農業に従事する人がいて、耕作面積で食物を作れば、食物自給率も上がっていくのではないかと感じる。

こういう問題はみんな知っていると思うが、お金を稼ぐ為に活動してしまっているのが現状。

食と言ったら、日本人の生命に関わる一番大切なところだと思う。スマホが無くても、旅行に行けなくても、服が無くても生きてはいけるだろうが、食べ物が無かったら生きていけない。

その一番大切なところを外国頼りにして自国で賄えていないという現状を認識している人は多いが、この問題を放置してしまっている現状がある。それをどうにかして解決していかなければならない。

そして、文言として掲げたいと思っているのは、

「少慾知足・儉約を旨とし、自国民の命に責任を持つこと。」

出典は、100年企業の家訓。100年企業の家訓には、末代まで永く家が続くようにと、儉約や少慾知足のような文言が必ずある。

「向井酒造」という京都の商家があるが、その家訓では、「人として足ることを知らざることは人間の一生の災いなり、足ることを知らずは100万の財宝を積むのも安心もなかるべし」とある。

分相応というか、将来のことや自分のことをしっかり考えてやらなければならないと身が引き締まる。

そして、具体的には、以下のような形。

- \* 贅沢をなるべく控え、外食よりも家庭での食事を楽しむ
- \* 外食店・食料品店の数を徐々に制限していく

- \* 出来れば自給できる努力をして、もし叶わなければ、国内で頑張っている生産者を応援すること
- \* 食べ物・命の大切さを理解する
- \* 「もったいない」の精神の復活

「自国民の命に責任を持つこと」というのは、当たり前の事だろうと思うが、今一度明記しておかなければ皆意識しないのではないかと思い、この文言を追加した。

#### ●参画者

ポップコーンパパの食品ロスはどのぐらいあるのか？

#### ●宮平崇さん

ポップコーンパパでは、ポップコーンという商品の特性的にあまりロスがない。失敗してしまった商品は廃棄することもあるが、少し味が不安定ぐらいの失敗した商品等に関しては、むすびの里に持って行ったり、知り合いにあげたりして、無駄なく使用している。

#### ●参画者

農地面積が減ってないが、農業就業人口の人数が激減しているというデータを見て学ばせて頂いた。また、「出来れば自給できる努力をして、もし叶わなければ、国内で頑張っている生産者を応援すること」という文言を見て素敵だと思った。

要は農地がたくさん余っているということなので、例えば、「交通違反をすると交通安全の旗を振る」みたいな取り組みと一緒に、交通違反をすると、社会奉仕で農業体験をするみたいなのは面白いのではないかと思った。

自分自身、むすびの里にお手伝いに行った時も、ひたすら畑に杭を打ち付ける作業をしたり、古民家でひたすら泥を掻き出す作業を行ったりした。

体験をすると、本来の日本人が助け合いながら生きて来たんだと感ずることができる。何かしらのきっかけを得て体験をして、体験を通じて、それを感じる人が増えるのではないかと思う。

個人的には、「交通違反をしたらむすびの里にお手伝いに行く」なんてのも良いんじゃないかなと思いました(笑)。

#### ●宮平さん

やりたくて交通違反しまくるかもしれないですね(笑)。

資料に記載しているのは、専業農家の数であって、もしかしたら兼業農家は変わらないかもしれない。

効率は上がっていると言っても、農業従事者が減っていくと、もっと農地が減っていくかもしれないので、何かしら対策をしなければならないと感じる。

あまりにもマネーベースになりすぎて、非効率なところを切り捨ててしまっていると思う。もしかしたら農業をするというのは不合理と考えられ、外国から安く仕入れる方が効率的だという流れになっているかもしれないが、そういう仕組みでは長いこと続かないと感じる。

贅沢思考を、至急止めなければ、何ともならないのではないかという実感がある。

#### ●参画者

自分自身、現在は緊急事態宣言の為に休業をしているが、自衛隊の大久保駐屯地の「隊員クラブ」という居酒屋でバイトをしている。

はっきり言って、居酒屋での廃棄は本当にすごい。最初バイトに入った時、宴会が終わった後のものすごい廃棄にとっても驚いた。世界には食べられない子が多いのに...と思いながら捨てている。

「美味しくない」というものもあるかもしれないが、朝ごはんや昼ごはんでも、ものすごい廃棄がある。

現在のコロナ禍での唯一の教訓があるとすれば、人間による地球汚染が減った事により、地球環境の改善が少し行われた事ではないかと思う。

#### ●参画者

先程おやじさんが前回オススメになった「みことのり」を今回持って来た。オススメの箇所があり紹介したい。「みことのり」の中の、一番後ろの索引。

歴代天皇は、前の天皇陛下の詔勅を参考にされて、繰り返し重要なお言葉を出される。それを索引で見ると一目瞭然。時間の無い方は、重要な文言をピンポイントで見ることができるのでオススメ。

その中で、歴代天皇が「我が国の国体はこれだ」と言っているものがある。それが、

『我が国の国体は「農」にある』

ということ。明治天皇も、「朕思う、農は國のもとなり」と仰られている。また、その前の天皇陛下も「軍よりも、農を優先せよ」ということを仰られている。

そのもっと前の崇神天皇も『「農」と書いて生業(なりわい)と読む。國の生業は農である』ということが記載されている。

なので、今回の提案は、日本の国体と一致していると感じた。

●参画者

地域の家の近くの農業を手伝っている中で、いろんな方がお米の乾燥機を借りに来たりするのを見た。ほとんどご高齢の方ばかり。そして、来年は米を作らないと言われる方も多くいらっした。

確かに、お米を乾燥機にかけて袋詰にして、それを持って帰るというのはとても大変な事。しかし、それを見て、来年もお米づくりをやって欲しいと思った。

ただ、生産者の方を応援するためには、どうやってできるのだろうかと考えなければいけない。

今回、子ども達を手伝いに連れて行った時、楽しそうにしていたので、学校のカリキュラムに「農」を入れたら良いのではと思っている。

●参画者

自分の見た感じでは、農家はちょっとずつちよつとずつ減っていっていると感じ、農地が無くなり、野生動物が出入りできなくて道路を突っ走っていくのを度々見た。

その中で、自給率や、食べ物を大切にする為に、どうすれば良いのかを考えないといけない。

家庭菜園をしたい人も居ると思うが、どうやって農家さんとのつながれば良いのかわからない人も多いと思うので、これも皆さんに相談してみたい。

●参画者

農業をやったことが無いので、農業を専業ですのと、兼業ですのがどのように異なるのかということ、できれば教えてもらいたい。

●おやじ

私は、本業は農業ではない。本業で農家をやっている人の話を聞くと、現在は大規模ではないと、本業では成り立たないと言われる。

大規模のスケールがどのようなものかと言うと、お米だと10町歩。1町10,000平米なので、100,000平米。しかも、区画整理された田んぼでなければ商売として成り立たない。畑は業種によって異なるが。

ちなみに、熊野で、「10町歩のみかん畑をタダでやるからやらんか」という話がある。85歳でやりきらんけど、跡継ぎも居ないのでそのような話になっている。

みかん畑では、1反歩のあがり、100万円。1町歩で1,000万。10町歩で1億円と聞いている。きちんとすればみかん農家としては食っては行けるが、商売としてやるんだったら、素人だと難しい。

ここからは私の意見となるが、國の食料自給率は本来全く問題ない。普通の國が生産額ベースでやっているのを、日本はわざわざカロリーベースに換算して、わざと自給率を下げている。本来は食料自給率は、世界ベスト10には入っているはず。

国策として貿易をしなければならないから、こういう理由付けでそのように進めている。コロナと一緒に。問題が無いものを問題にして、「取り組まねばならない！」と先導している。

食料自給率は問題ないが、農業就業率は確実に下がっている。幕末では、農業従事者が、國民の87%程は居たはず。つまり、日本人のほぼ90%が農業に従事していた。そこから考えるとどれくらい事。専業、兼業を含めてもかなり少ない。

そして、なぜ農業従事者が少なくなっているのかと言うと、商売としてやっていくのは大変だから。だから皆敬遠していく。そして、元々農家だったところも、農業じゃあ食っていけないからということとでやらない。

兼業というのは、自分の食い扶持は自分で取っていくということ。農をお金に替える農業ではない。

それをもっといっぱいやったら良いと思う。商売をやろうと思ったら大変だが、自分の食い扶持は自分で作るという事に関しては明日からでもできる。そして、お金はほとんど出さないでできる。

現に、自分自身、1町歩の田んぼと、2反歩の畑をやっているが、田んぼの方は休耕地を耕してやっている。畑の方は、長老から「お前やれ」と言われてやっている。地代などは、一切かからない。「やってくれ」と頭下げられてやっているだけ。

お金がかかるとすると、苗や肥料。そして機械。機械が高い。私の場合、最初は機械は周りの人からもらって、機械にはお金をかけずに苗や肥料、あとはちょっと薬にお金がかかった。自分の食い扶持を考えたら、売らなくても自分の消費分だけで全然元は取れる。

だから、兼業はいつでも誰でもできる。それをもっと多くの人にやってもらいたい。兼業農家を國民の半分かすると、それで全て解決するのではないかと思う。

特に、お米の場合は、自分で作ると安心感がある。「餓えない」という安心感。仕事をぽしゃって、お金を稼げなくなったとしても、死なないという安心感。食ってはいける。そう簡単には死なない。

就職しかできない人は、就職先が無くなったら死ぬしかなくなる。たまに東京に行って、東京駅ですれ違う肩を落とした人達に「百姓やれよな」と言いたくなる。

自分で自分の食い扶持を作るというのは、天孫降臨の大目的だった。生きていく基盤をちゃんと作りなさいということ。それさえやれば、全員生きていける。

だからこそ、食國(ヲスクニ)という食の國として、生産者率が人口の90%まで達し、食うに困らない体制がほぼ完成していた。豊かな國だったのだと思う。

だから、食料自給率の問題は、国民全員が何らかの形で自分の食い扶持の生産に携わるという事で解決する。できればお米に携わるということ。

お米は一人ではできず、人手がいる。稲刈りや田植えには人手が必要。お金を掛けて機械を買うということもできるが、兼業農家だと機械を買えないので人手がいる。そうすると、手伝いをする人間関係がいる。そこにコミュニティーの基盤ができてくる。

日本の社会を取り戻す為、「農」の問題はとっても大切な話だと思う。

#### ●参画者

今日も田園風景の中、單車で来たが、とても気持ち良い。農に関わっている人たちを見ると、とても嬉しくなる。

みかん農家の人から、最近の人はみかんを食べると手が汚れるからコンビニの剥いてあるみかんを食べるという話を聞いて、「かなりやばい」と思った事があった。

農家の方も切磋琢磨しているので、都会で暮らしながらも田舎の農家の方々に関心を向けてくれたら良いのではないかなと思う。

また、先程の「税金払えないから労働して下さい」というようなシステムに変わればいろんなことが解決すると思う。お金が介在しなくなったら、いろんな問題が解決すると感じている。

#### ●おやじ

食品ロスの話で付け加え。自分で米や野菜を作ると、外食の機会が激減する。と言うのは、びっくりするくらい穫れるから。

むすびの里では、仲間の人達がいっぱい来てくれるので消化できるが、それでもナスやピーマンなど、食べきれない程収穫できる。

だから近所の人にも、お互い作ってはいるが「うちのも食ってくれ」とおすそ分けをしたりする。自分で作ったものだから勿体なくて捨てない。一週間、ピーマンやナスばかりでも食べ続ける。

お米だって、1反歩だったら、だいたい一家の一年分が穫れる。そのお米を食べることは喜びでもあるし、食べきるのは使命でもある。だから外にご飯を食べに行く事がなくなる。

そういう意味で、外食や食料に対しての考えが変わってくると、ロスしようという現象が起きなくなってくるのではないかなと思う。そういう意味でも、自分で作るのはい良い。

田んぼは日本中余っているので、どこでもできる。すぐに「やってくれ」という農家さんはたくさん居る。

「田んぼ一枚やってみようか」と言って、友達同士で米作りやっている人達はいっぱいいる。仕事をしながら、分業して、水回りを見る人が居たり、草抜きをしたり、みんなで協力しながらやっている。

お米のケアは、4～5ヶ月間。4、5人で3反歩借りてやったら、その4、5人分の年間のお米は必ず収穫できる。自分の作ったお米を一年間食べれる。幸せな気分になれる。



●宮平崇さん

やはり、儉約とかそういうのが大切。不動産業界でも、空き家がたくさん余っているにも関わらず、金の為に新築物件などを建てまくっている。何の為にかというと、お金が足りないからということ。

元々は食っていく為に稼ぐお金なので、食い扶持を作っていくのは大切だと感じた。

「農は國の元なり」という文言は、憲法の一文に入れるべきだ、と皆さんのお話を聴いていて感じた。

また、「少慾知足」という文言を憲法に入れて、それを国民一人ひとりが意識して、学校教育等でも教えて、だんだんと浸透して大人に成っていくような、そういう日本人が増えていったら良いと思う。

## 採用活動・教育の問題

●目見田さん

資料2点

- 安岡正篤師が説いた「義命」、「立命」の真理
- 日本國憲法に謳うべき言葉の提案

兵庫県宝塚市でガソリンスタンドを1店舗と、神戸市北区で整備工場を1店舗やっている経営者で、会社の規模感は社員役員11人、アルバイト20人の、30人ぐらいの、会社という集落の長をやっている。

日々働いていて課題だと感じるのは採用の問題。若い子は車に興味が無かったり、そもそも車業界を目指す人自体も減って来ている。

2年制の専門学校生・短大生に向けて、1年生の夏には大手会社（TOYOTA、NISSAN等）が内定を出しているという現状。なので、普通に整備士の専門学校を出た子は採用できない。

また、「カーボンニュートラルアホかいな？」と記載しているが、実際に、親御さんになれば、お金を掛けて4年間大学に行かせたのに、「あと9年後に自動車無くなるねんぞ。なんでガソリンスタンドなんかじゃ就職するのか」という人が多い。そういうように社会的な刷り込みがされている。

そんな自動車業界はどうなっているかというと、外国人技能実習生をひたすら推奨して来る。ただ、私は日本人の若者を育てたいと思っているので「絶対嫌です」と断っている。

上記の事から、普通の採用活動をしていたのでは駄目なので、夢を語って、先ず入社してもらい、3～5年掛けて整備士の資格を取ってもらう形で、整備士を育てていくという形で進めている。

合同企業説明会では、「大切にしている考え方」と「理念・ビジョン」しか語らない。みんな理解不能な様子。

また、ブースへの入り口には自分の等身大のパネルを置いて、そのパネルを見て「お、なんか面白そうやん」という人だけに来てもらうようにしている。

私が、採用活動をしていて日本人の若者について思うこと。

- \* ほどほぞ族→出世はしたくない、自分の時間を大切にしたい
- \* ライフスタイルの多様化→地方でテレワーク(非人間接触型ワーク)がしたい
- \* 熱気溢れる若者の社員の割合は約7%と言われている(2.6.2の法則)
- \* 人生の目的が満足要因→家族、子供と時間を大切に過ごす為に働く→その先にある大義を見失っている人が多い

一番言いたいことは、「日本人の最近の若者は満足ベースになっている」という事。人間とはそれぞれ意味を持って生まれてきており、必ず自分の先祖からバトンを受け取り今の自分が形成されている。

何を為すのかという「宿命」や「運命」を知った上で、死生観を持ってどう生きるかということが大切だと思う。

問題点として、現代は全て満足に照準が行っており、ちゃんと生きていないのではないかというのが問題だと思う。それを解決する為には、教育が大切だと思う。物心がついた頃から両親が子供に道徳を説くことが必要だと感じている。

「我々日本人はこうやって生きてきた、だからあなたも日本人として生きて欲しい」ということを伝え、「世界のリーダーたる日本という国をつくって欲しい」という想いを伝えてほしい。

それらを踏まえて憲法に載せる言葉は、

「日本國民は義命を立て、日々を精一杯生きる」

という言葉。一人ひとりが自分の人生の宿命、運命を知り、世の為人の為に自分の命をどう使うか。我々日本人は、上の言葉の通りに生きて来ている歴史があるので、それを子供に教えていくことで、自分だけの満足を尺度に生きる人が減っていくのではないかと思います。

資料の説明として、安岡正篤氏。玉音放送の原稿を考えられた方。その中の一文で、「時運の赴く所」という文言を、本来は「義命」という言葉を入れたかったらしい。しかし、国会で審議した時、難しく理解できないのではないかとということで、言葉が置き換えられてしまった。

戦争を始めた事には「大義」があり、「大東亜共栄圏を創り、欧米列強から自立して生きていこう」という事を國として取り組んでいた。國でも、個人でも、どう生き、どう死ぬのかということが大切のように思う。

弊社でも、立命宣言という取り組みを行っている。社員全員に生きる目的を記載してもらい、朝礼で毎朝発表してもらっている。生きる目的と目標が統合していることが大切だと思うので、そのような事を行っている。

とはいえ、まだまだ道半ばで、コツコツとこれからも歩みを進めていきたい。

●参画者

すごく良い会社だなと思った。今の大人は、満足の部分を追求しがちなので、本当に大切な事を大切にする大人を増やしていかなければならないと感じる。

自分たち、50歳前後の人たちは、上の世代の人より苦勞していなくて、それが当たり前になってしまい、更に子供達を甘やかしてしまっているという現状があるように思う。自分たちから変わらないといけないと思う。

自分達自身が働く意味を考えたり、働く事が日本や地域にとって良いことだということを伝えたり、お金を稼ぐことだけが仕事ではないという事をもっと伝えていかなければいけないと感じる。

●おやじ

社員の方は、社長の事をどう見られているのか？

●目見田さん

うちの社員を知っている方から発表してもらった方がわかりやすいと思うので、座間さんお願いします。

●参画者

目見田さんは、社員の方から「大将」と呼ばれており、細かいことはグチグチ言うな、俺がこう思っているからついて来いというリーダー。社員の事を想ってらっしゃって、いろんな取り組みをされている。

社員の方から、「ここはちょっと無理やろ」という事を時に聴くこともあるが、ナンバー2の方がしっかりされており、「目見田さんについていく」と覚悟を決めているすごいと感じる。

いろいろあるとは思いますが、社員はなんだかんだで社長についていくと決めているように感じる。

●参画者

勉強会で目見田さんの社員さんと一緒にいることがあるが、「大将は大将として突っ走ってもらって、自分たちは大将の想いを社員に伝えていく」と言われている幹部の方がいらっしゃる。

その中でも、腑に落ちないことはあるということはお聴きすることもあるが、それはどの会社にもあることだと思う。

目見田さんというリーダーが居て、「リーダーを支えていこう」と一丸となっている会社なのではないかと、傍から見ていて思う。

#### ●参画者

「義命を立てて生きる」というのはとても良いなと思った。自分自身はいわゆる「ゆとり世代」で、皆様から見ると甘っちょろい若い世代。

自分も何になりたいのかわからなかった。大学も、とにかく親元を離れたくて東京に行ったり、文系の科目が得意だったから文系を選んだり、でも何に成りたいとかは無かったので、潰しの効く経営学部を選ぶ、などという人生を歩んで来た。

いわゆるパッケージ型で選ぶ教育を受けて来たのだなと思った。

ただ、自分が社会に出て働くようになったとき、どうせならカッコよく生きたいなと思った。じゃあカッコよくってなんなのか？と考えた時、「お金持ちになって裕福になったらカッコいいのか？」とも思わなかった。

実家に年に2回ぐらい帰る機会の中で、生まれた時には既に亡くなっていた祖父の話に触れることがあった。

祖父は、福岡県春日市という小さな市の市議会とか市長をしている流れで、亡くなる前の10年間で福祉の事業をすることになったらしい。

糖尿病などを患っている中、週に2～3日の透析を繰り返しながら、最期の5～6年福祉の仕事して、その功績を讃えていただき、天皇陛下から勲章を頂いたと聞いた。

20代後半になって、祖父の生き方に再度触れた時、前総理の安倍晋三さんが、病気だから総理大臣を退いて、辞めたから元気になりましたみたいになっているが、そういう生き方と比べても、祖父の生き方はとてもカッコいいなって思った。

「自分は病気で先は長くないけど、やらないいけないことがあるから、あと数年生きさせてくれ」という、祖父のように義命を貫く生き方をしたいなと感じた。

自分は祖父の生き方を通じて、それを感じることができたが、自分の周りの同じ世代を見ていると、30代前半の男性で「彼女が居ない、結婚ができない、俺の人生終わった」という人が多い。それは、そこがゴールになってしまっているし、そもそも社会貢献という考えがない。

女性にしても自分が良い生活ができる為の相手を探すという人が多い。それはそれでグローバリゼーションの狙いだと思う。「こうしていくんだ」という一人ひとりの使命など考えさせずに、与えられたものの中から選択させていくという目論見なのではないかと思う。

今一度、宿命や義命を立てて生きていくことは素晴らしいなと思った。

●参画者

目見田さんの何が素敵かよくわからなかったけど、やっとわかった。生き様がかっこいい。  
目見田さんの事を知ってらっしゃる方からは、「目見田さんっていいのよ」と聴いていた。

初めて会社の事を聴いたが、政治は人を変えられないとか、社会を変えられないとか言うが、こういう生き方の人に、政治に携わっていつてもらえたら良いのではないかなと思う。

日本文化を考えた時、滅びゆくものを後世に伝えていくために、自分が何をすべきかということを考えていて、ここ最近、自分にもできることがあると、やっとわかって来た実感もある。

それを会社でみんなに叫んでいる目見田さんは最高だと思った。

●目見田さん

自分たちが日本を良くしていくには、政治など関係なく、一つのコミュニティーを各々が良くしていけばよいのではないかなと思っている。自分の中での最小単位は会社。会社をやっていない人は家族で良いと思う。

政治がなんとかしてくれるではなく、主体性を持って、目先の小さい単位を精一杯良くしていくことで、日本が良くなっていくのではないかなと思っている。

●参画者

若い人の採用に困っているという話で、入りはなんでも良いから、自衛隊のようにイベントを開催してハードルを下げるのはどうかと思った。

今の自衛隊もアニメのキャラクターなどで入りやすくして、入隊してもらうようにしている。が、入った途端のギャップはものすごい。でも入口は何でも良いので、入ってもらって合う合わないを判断してもらっても良いのではと話を聴いていて思った。

教育の問題解決の提案として、物心ついたことから道徳を説くという話では、自分の世代は、親から厳しい躾をされたり、親だけではなく町内の怖いおばちゃんや、おばあちゃんに怒られていた事を思い出した。

現代は、他所の人には怒られない社会。他所の人が出てくると「うちの子に何を言うんだ」と、モンスターペアレンツが出てくる。地域の人からしか教えてもらえない事も多いのに残念。

また、思うことは、自分の身に起きないと、自分ごととして考えられない人が多いのではないかなと思う。

自分自身、コロナのワクチンの事をFacebookに書いたら炎上してしまった。コロナのワクチンを打って、5日後に知り合いが亡くなった。知り合いの看護師さんも打って1時間後に心肺停止に

なったという事を聞いた。身近にそういう人が居るから怖いと言っているだけなのにとっても叩かれた。

普段は「大阪ブルーリボンの会」という、拉致被害者の会で街頭で活動していても、皆スルーして過ぎていく。もし、自分の子供が拉致されたら等、自分自身が当事者になるというイメージをできる人が極端に少ない。

人と人の関わりがものすごく薄く、何事も自分とは関係ないと切り離している人が多い。とても寂しく感じる。

#### ●参画者

本当に自分の生きる意味や仕事に対しての捉え方というのが目見田さんの根本にあるのだということを感じさせていただいた。

わたしは、2012年約9年前にミスユニバースという女性の世界のコンテストの日本代表になり、世界大会に行くことが出来た。コンテストに挑戦をして自己研鑽をする行く中で、そもそも私は何の為にこの大会に挑戦をしているのだろうか？ということを考えていた。

自分も、小さい頃から順位を決めないとか、みんなで一緒にゴールしようなどという「ゆとり教育」の中で育って来たが、競争の中に身を置いた時、一番になることが目的なのではなく、自分がその経験を通じて、どんな人生を歩みたいのかジャッジの場所なんだということを経験から感じた。

何を大切に、何のために働くのかということは、全ての環境に共通して生き様として重要なことなのだと、話をお聴きして思った。

何をやるのかということより、自分がどう在るのかということ、先ずはじめに自分自身で設定して、理解することが大切なのではないかと感じた。

でなければ、飲めば飲むほど喉が渇くように、絶対に幸せになれないのではないかと、とお話を聴いていて感じた。

「在り方」が不明確なまま人から叱られた時、人からの助言の捉え方は変わって来るのではないかと感じる。

叱られ慣れていない若い人に対する接し方も考察しなければならないという事と、何を基準に善悪を決めて叱っているのかという事も明確にしておかなければならないのかもしれない。それを、共通認識として、一つひとつの組織で持っていないと、叱る側も叱るに叱れないのではと感じる。

自分自身も、義命を持って生きていきたいと感じた。

#### ●参画者

自分は臨床心理士で、ある医学部の教育に携わっている。ガソリンスタンドの課題で、そもそも車に興味が無いと記載されているが、医療に関わる学生も、そもそも医療に興味が無い人が多い。

「何故医学部に入ったの？」とか「どうしてお医者さんに成りたかったの？」と聞くと、成績が良かったからと返って来る。

浪人はしたけど、頑張って一つ上の大学に入れたとか、親が医者で継げと言われたからとか、親が歯医者で「歯医者は医者ほどの給料を得られないからお前に託す」とかで医学部に来ている学生が居る。

そういう人達は、目標が無いので、医学部に入ってからが大変。そんな人達の相談に乗っていたりするが、正直、「どうしようも無いな」と思ってしまう。

今の医療だと、決まった診断軸で診断が出て、それにあった治療方法と薬を出しているだけなので、人間である必要が無い。AIで十分対応できる。

自分は心理士で精神科で働いているが、一番いらぬのが精神科医と臨床心理士。

十七条憲法や、目見田さんが言われていたように、根底がしっかりしたら、政治家と精神科医と臨床心理士というのは要らない職業。

義命を立て日々を精一杯生きるというところの、「義命」というのが欠けたまま専門職を目指している人も多いという事を改めて思った。

医者は、主体性が欠けていて、自分で考えて来ている訳では無いので、指示された通りになんでもやる。時給2万円でワクチンを打ったりする医者も多い。言われたままに自分にもワクチンを打って倒れる医者も多い。

目見田さんの提案を受けて感じたところ。

#### ●参画者

お医者さんは、病名をつける仕事の人だと思いこんでいる。私が40歳になった時に、市から無料診断のはがきが来て、試しに行ってみたらこの薬を飲んで、このぐらいの頻度で病院に通って下さいと言われた。

要するに、病名を付けさせられて、薬漬けにされる為のはがきなのだと思い、「お前に言われる筋合いは無いんじゃないか」と思い、それ依頼診断には行っていない。

人に身体を治してもらおうと思っているのがそもそも間違いなのではないかとも思う。

先程、コンビニエンスストアの話があったが、歯医者はそれを上回るという話を聞いたことがある。日本の歯科は、歯を削るとポイントが上がるらしい。

歯を削ったりすることに関しては保険が適応される。ただ、予防医療では保険は適用されない。歯が悪くならないとお金を稼げないので、予防医療を行う人が少ない。

全てが金儲けで、全てお金に関わる事ばかり。

義命・立命をみんなが持てたら良い社会になっていくのではないかと感じている。

#### ●参画者

頂いた資料を読んで、義命というワードについて考えていた。

資料から、

『天地自然と共にあるということで「宿命」ということになります。生命は運命であるとともに宿命である。しかもその宿命は、高等生物になればなるほど、心が発達して必然的に「いかにあるべきや」という「義」の問題が生じてくる。これを「義命」という。人間の生命は、宿命であると同時に意識・精神が発達して「義命」というものを宿す。そこで人間は宿命と同時に義命によって、よく天地の創造・造化に参じてその生命を造り、義命を立てていく。』

『宿命感ではいかんのであります。日本はどうなりつつあるのか、これをいかにすべきやという「義命」を明らかにして、それに基づいて日本の運命を「立命」していくことが絶対に必要であります。これは国家ばかりではない。我々自身もそうだ。「運命論」「宿命論」はわかりやすいけれど、「義命」となるとわからない。』

とある。

めっちゃめっちゃ賢い人でもわからず、「義命」という素晴らしい言葉を使わなかったということは、「いかにあるべきや」ということが人によって異なるので、そういうところの難しさを感じた。

また、少慾知足とか儉約、義命を立てることが日本人としての在るべき姿としたとき、日本人は、全員それに則っていくのが良いのか、それに則っている人を日本人と考えるのが難しいところだなと感じた。

#### ●おやじ

「宿命」というのは、決まった事を受け入れるという受動的なニュアンス。

日本の場合、老子の「自然のままに」などという教えは、儒教の中でも早くに日本に入ってきた。それは、日本には天地の理に従うという感覚があるから。江戸時代のような驚愕的なものは本当に後。

それと日本の神道が根本的に違うのは、神人一体ということ。神人一体とは、自分が天之御中主神や神武天皇になるということ。天之御中主神は創造の原点。そして、自分が神武天皇に成るということは、この國をつくる原点になるということ。

つまり、自分の運命というのはこれから創っていくという立場。流れの中に自分があって身を任すという態度ではなく、自分は宇宙の起源の神と一体であり、この國の最初の神武天皇と一体であり、修理固成の立場であるということ。国産みをする立場であり、主体であるということ。

宇宙を創る主体であり、天地自然を創る主体であり、大和の國を創る主体であるということが、日本人のいう「神人合一」であるということ。



天地の自然に任せていくという受動的な態度とは根本的に異なる。

安岡正篤は儒家の人なので、どこまで神道的な立場なのかはわからないが、日本人にとって命（みこと）というのは、全体の一部であり主体者であるということ。自分の位置づけとしてすごく大切。ただ流れていく立場ではない。

「道」というのも、神道だけ「道」がつく。仏教、キリスト教、儒教、これらは全て「教え」。教えという、規範があり、その規範を教わるということ。既にある規範を崇拝し、拝め祀るのが宗教の性質。

神道というのは、神ながらの道ということで、神様と共に生きていく経験の事を言っている。教えが最初からあるという立場ではなく、「神様と共に生きる」という事を道とする主体性がそこにある。神が主とかそういうことではない。

そこは、日本のお国柄を考える上でとても大切。神道を経典化すると誤ってくる。教えになると誤る。神様と共に歩む事によって、自分から気づくということが本来の在り様。自分は主体的に未来を創っていく立場であるということ。

その主体性というのは、自分勝手ではなく、神と共に創っていくということ。神と宇宙であったり、自然、地球であったり、家。祖霊を祀るというのは、祖先と同じ立場で、自分の家の未来に向かっていくということ。

目見田さんの話を聴いていて、義命を立てるというのも素晴らしいけど、「範を示す」というのが憲法に記載されても良いのではと思った。上に立つということはどういうことなのかというと、教えを垂れるということではなく、範を示すということ。

範を示すというのは行為であって、行いを示すということ。その下の人は、自分の考えは持ちながらも、範を示されて、良いと思ったらそれと一体になって行っていく。

要するに、忠や孝。これは隷属ではなく、自分から主体的。そういうものも憲法の中に入れていけば日本らしさが出てくるのではないかと思う。

八紘為宇の詔の中でも、範を示すということを言われている。天皇自らが神の範に応えようという姿勢を示し、天皇が示した範を広めていくことを言われている。教えではなく、「行為」。行為に対しての賛同である。

十七条憲法も天皇陛下の詔にしても、「こうしなさい」という教義は一切とらない。和を尊ぶというは、そういう「行為」をしなさいということ。そういうところが日本の「のり」の性質ではないかと思う。

宗教は、「神の啓示＝教え」。しかし、日本の場合、「啓示をされ、よくわからないけどそれを行う」という姿勢。神の言葉は教えそのものではなく「示唆」。

ぴーん教えが降りて来て、それ自体が経典・教義だという閃きがあったとしても、やってみて「正しい」、「正しくない」が判断される。

しばらくこのような議論をしながら探って行ければ良いと思う。

